

(様式第4号)

調査研究完了報告書

調査研究課題	茨城県内流通食肉から検出されたサルモネラ属菌の薬剤耐性状況に関する調査研究
研究期間	平成28年度～29年度 2年間
目的	茨城県内流通食肉から検出されたサルモネラ属菌に対して薬剤耐性検査（薬剤感受性試験・薬剤耐性遺伝子検査）を行い、薬剤耐性サルモネラ属菌の検出状況について実態を把握する。
得られた成果	解析を行ったサルモネラ属菌82株のうち、7株が第3世代セファロスポリン系抗菌薬に耐性を示すことが確認された。うち6株からはCMY-2型遺伝子が検出され、食肉由来サルモネラ属菌において同遺伝子が広がっていることが示唆された。
成果の普及・活用方法	本研究は大同生命厚生事業団「地域保健福祉助成」制度を活用して実施しており、研究結果報告書は大同生命厚生事業団HPを通して公開している。また、茨城県内にて開催された茨城県薬剤師学術大会、ワンヘルス会議において成果発表を実施した。
残された課題・問題点	今回の検討において、茨城県内流通食肉から検出されたサルモネラ属菌には約1割の割合で薬剤耐性株（ナリジクス酸耐性株、第3世代セファロスポリン耐性株）が存在することが確認された。今後、この薬剤耐性サルモネラ属菌検出率の推移を調査することが課題である。

完了評価結果報告書

平成30年 9月18日

調査研究課題	茨城県内流通食肉から検出されたサルモネラ属菌の薬剤耐性状況に関する調査研究		
評価項目	評価	意見	備考
①調査研究の妥当性	5, 5, 5, 5, 4, 4, 4 平均評価点 4.6	<ul style="list-style-type: none"> ・期間, 方法, 費用対効果共に妥当と考える。 ・外部資金を獲得して実施しており、限られた予算の中で、効率よく研究を実施し、優れた結果が得られている。 ・過去に検出されたサルモネラ属菌に加え、新たに得られた菌株を用い、外部資金を有効に活用して研究が実施されている。 	
②目標の達成度	5, 5, 5, 5, 5, 4, 4 平均評価点 4.7	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の目標とおりの結果が得られている。 ・県内流通食肉のサルモネラ属菌の薬剤耐性の実態を調査し、成果を達成できている。 ・食品衛生上なテーマであり、2年間で予定した目的は達成されたと考える。 	
③成果の意義, 達成度	5, 5, 5, 4, 4, 4, 4 平均評価点 4.4	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね妥当と思われる。 ・茨城県のサルモネラ属菌の薬剤耐性の現状の解明に貢献している。 ・AMR 対策としても有効であり、茨城県の畜産物の安全性確保への活用も見込まれる。 ・今後畜産特に養鶏関連の試験研究機関と共同して、薬剤耐性菌の発現機序と鶏肉の汚染経路を明らかにしてほしい。 ・成果を広報し、学会・研究会で発表した点が良い。活用のために、県内の推移に加えて、耐性伝播ルートの追跡が望まれる。 	
④総合評価	5, 5, 5, 5, 4, 4, 4 平均評価点 4.6	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城県で流通する鶏肉のサルモネラ属菌の薬剤耐性の現状を明らかにした。さらにその成果について助成財団のHPに公表、学会で発表しており、評価できる。 ・食肉のサルモネラ属菌の保有状況や薬剤感受性、各種抗菌薬の耐性率、耐性遺伝子まで明らかにしており、評価できる。食肉からのこのようなデータはAMR対策としても非常に重要であり、畜産分野と医療分野の連携など今後様々な活用が見込まれる貴重なデータとなる。活用を期待する。 ・研究の目的は達成されたと考える。成果を役立てる方法を、検討して欲しい。 ・ヒト由来株との関連調査が必要と思われる。 	

評価点 1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好

追跡評価実施の 要否	要：1人 否：6人	・他県の衛研と、食肉のサルモネラ菌属の薬剤耐 性に関する共同研究が望まれる。	
---------------	--------------	---	--